

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894700034		
法人名	株式会社カマダグループ		
事業所名	グループホーム家族の家		
所在地	兵庫県美方郡香美町香住区一日市926番地		
自己評価作成日	平成24年11月15日	評価結果市町村受理日	平成25年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2-2-14
訪問調査日	平成24年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんをご自宅で暮らしておられる様な生活を送れる事をモットーとしている。 ・利用者さんにとり、安心で心地よい介護に努める。 ・近くに日本海・香住の町並みと絶好のロケーションに囲まれ、自然散策にも事欠かさず。また近くには香住病院・消防署もあり、緊急時においても安心・安全な好立地「香住山手地区」に位置しています。
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>①理念に基づく運営・・「その方が、その方として、その方らしく暮らしになれるようお支えます」の理念の下、入居者一人ひとりの現況に合わせたケアを敬意を持って実践している。②温もりのある生活・・木のぬくもりを大切にしたりとした開放感あふれる居住スペースに、入居者個々人の思い・意向にそった支援が実践されている。形式的ではない季節行事や入居前生活の延長線上に今の生活を捉えた対応等本人本位の日々が流れている。また、生まれ育った地域での伝承の料理等も提供できるように食事内容にも意識して取り組んで知る。③法人内連携・・同法人内の通所介護事業所と日常から交流(外出・行事等)があり、楽しみ事への相互協力関係が図られている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の一字一句を覚えるにとどまらず、悩んだときの尺度としての理念として位置づけ、すべてのスタッフが共有し実践していきます。	理念「その方が、その方として、その方らしく暮らしになられるようお支えます」と「安心と尊厳のある生活」「その方のあるがままを」「地域住民の一員として」を指針のキーワードに職員全員が入居者の日常を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所・地域自体ともに新しい為、あらゆるものが整っていない、地域住民・施設側の地域行事へ相互参加ともに勧奨し、集会場としての場所の開放もその一環として取り組むべきものと位置づけ呼びかけを始めます。	「地域住民の一員として」を実践するため、地区散策での住民との会話や地域行事（神輿見学、カニ場祭り等）への参加や保育園児との交流、また、トライアルウィークを受入れている。	地域の方が気軽に立ち寄って頂けるような企画の実施を更に勘案されるとともに、地域の社会資源としての取り組みの継続に大いに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者さんの「日向ぼっこ(日光浴)」での実施状況が、先の運営推進会議で「地域住民への認知症理解の一助となっている」との評価を頂いている程度で、地域貢献とまでは進んでおりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見・要望には、職場会議時等にテーマとして取り上げ、施設運営に活用しています。運営推進会議には次回会議日時等も協議し会議参加しやすい環境整備に努めております。	運営推進会議では、事業所からの情報提供だけでなく、参加者よりの要望・意見に耳を傾け、地域の一員としての役割を果たすべく取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月香美町役場主催「ケア会議」に出来る限り参加し、他の事業所・事業体の取組状況等情報交換したいと思い出席しております。	月例でのケア会議(町役場主催)に出席し、行政との連携につとめ、また、参加している同業者との情報交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアに向って、利用者さんも帰宅願望強く、交通事故防止の観点もありますが、スタッフの見守りの厳正により日中玄関無施錠化実施いたしました。	身体的拘束等の弊害を職員一同充分理解し、制限のない生活が行えるよう支援している。日中玄関は解錠しており自由に出入りができる状態となっている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	従来のような身体的・経済的虐待よりも、日常最も注意を要することは「言葉による虐待」であり、機会ある度に注意・喚起に努めております。この一年スタッフ教育で最も傾注した課題です。	高齢者虐待に繋がる「不適切なケア」のなかで、特に「言葉がけ」に注力し、職員個々人の独断での対応を避け、チームケアが具現化するよう入居者へ敬意の念をもって接している。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当地でも核家族化が増え、成年後見制度等の利用・必要性が高まる中、本件講習会にかかわらずぜひとも参加勧奨し、環境作りに努めます。	権利擁護に関する制度を理解している管理者を中心に、全職員がそれを理解・共有できる用になることが当面の課題と捉えている。	権利擁護に関する所管である地域包括支援センターに協力を仰ぎ、権利擁護全般及び具体的事例等の学習会を開催されてはいかがでしょうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には専門用語をさげ、形式的説明に止まらない説明を心がけ、介護者(代理人)だけでなく家族にも理解の上での契約に努めております。	契約前に見学、個別面談等を実施(管理者、計画作成担当者による)し、不安、疑問等がない状態で契約を締結している。重度化・終末期に対する事業所の方針も説明し、理解いただいている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の皆さんは近所にお住まいで、日頃よりお逢いする機会多く、雑談の中に意見・要望をくみ取り、ミニカンファレンス等で共有・反映を心がけ。「カマダグループ新聞」その内容の充実が課題である。	家族とは、地域(買い物の途中で)で出会ったり、訪問時や運営推進会議の場で意見等を受けており、申し送り等でその内容は共有し事業所運営に反映している。	より広く、深く家族等よりの意見を受け入れるため、入居者情報の頻度を上げた発信並びに聴き取り方法を検討されてはいかがでしょうか。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議にはオーナーもできる限り出席し、意見要望の聴取を行うようにしているが意見希少なので、やり方を再検討したい。	職場会議が職員から意見が具申される機会となっており、管理者の権限で即決を基本としてすすめている。また、年2回程個別面談も実施し風通しのよい職場となるようはかっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開業まもなく3年、本施設も落ち着き始めたようで、人事管理・人事考課等の体系化を導入方針です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会への参加勧奨するも意欲が低調である。研修体系の導入環境作り、自己啓発の推進・勧奨して行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者交流は開業時だけに止まり、その再開をはじめ、より高度・高位の交流を交渉中です。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時はじめ日常会話の中で、不安や要望を取り出だそうと努め、その反映を図っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とスーパーなどでお逢いする時、ご家族の要望等聞くことがある。次面会来訪時に話しやすい雰囲気を作るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・ご家族の必要とされる支援内容をつかみきれなかった思いもあり反省し、意思疎通の重要性を痛感しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	気がつけば高位から話をしている事に驚く事があり反省し、その改善を痛感しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会来訪時には担当職員との面談も勧奨し、ご家族と利用者さんの絆づくりの一環として「共に考える姿勢」を保持したいと努めています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の出来事・行事・家族の出来事情報の収集に努め、それを利用者さんに提供するようにしています。	出身地域の情報を集め、そこでの祭りに出かけたり、町や社会福祉協議会の便りを活用し、知人と出会える行事や外出の機会を設けるようはかっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立した利用者さんのでないように、常に気遣いに努めるも、「その人らしさ」に注意した取組を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所相談・退所後相談にも出来る限り支援すべく、日々情報収集に努めて、日常より何でも相談をして頂けるような環境を築きたいと努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で一人ひとりの想いを思いやり・受け取れるよう努めています。	入居者との会話や仕草や表情から、センター方式のツールを用いて本人の思いや意向を把握し職員間で共有している。	入居者の思いや意向をより具現化するため、個人毎に会話等する機会を1日に一度設ける等され、全職員が共有できるよう取組まれてははいかがでしょうか。
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から教えて頂いた事、利用者さん本人から聞いた事を職員間で共有したく努めています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さん本人の望みを優先するも、自立継続努力をも大切にしたいと努めています。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員をリーダーとして、チームケアで取組に努め、ご利用者を理解するためセンター方式シート利用を推進し、チームご利用者情報を共有に努め、介護計画に反映したいと取組はじめました。	本人の思いや意向をベースに、担当職員の意見、家族の要望を踏まえチームとして介護計画を作成している。	介護計画を即応性のあるものとするため、現行介護計画と入居者の現況の整合性確認をするモニタリングにもチーム力を活かされてははいかがでしょうか。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき・見守のを記録がスタートしたばかりで、まだまだその活用の余地があります。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り対応したく努めるが、平等・公平な対応も大切な事と考えます。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭りの行事に参加し、地域の方とふれあうことができた。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続して受診しており、家族対応をお願いし、希望により通院介助している。	入居前からのかかりつけ医による支援を継続している。受診同行は原則として家族にお願いしているが、状況に応じ、事業所が同行する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づきは、看護職や介護職員間で共有すべく、引き継ぎ書の活用を奨励中です。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は家族との連絡を密にし、お見舞いに行き、本人の様子を知るようにしている。退院後の生活を家族と相談しながら対応している。	入院中は、入居者の不安感を軽減すること並びに病院との連携を密にするため、計画作成担当者、看護職員が面会に出向いている。退院時には、その後のケアに不具合が生じない様家族と共に病院と情報交換している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療的処置(入院治療)長く必要になればグループホームでは対応できない事伝え、特別養護老人ホーム等への申込みをお願いしている。	契約時に重度化・終末期への対応方針を説明し、ホームで行える支援の限界を明確にし、常時の医療処置へも対応できる機関への申込みを入居時にお願している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応については、消防署等指導の下に緊急マニュアルを作成し、実地訓練取り組み次の課題として「夜間時の対応」を課題として明示されております。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「防災士」の資格取得行う等職員ステップアップを奨励し、施設にとどまらず地域住民をも巻き込んだ防災意識向上のため、機会あるごとに地域住民・施設間の交流勧奨に努め参加を呼び掛けています。	事業所の防災訓練を日中帯想定で実施している。地域の合同訓練にも参加し、また、事業所の訓練にも地域の方に参加いただいている。夜間想定訓練を計画している。	今後の地域ぐるみの災害対策についての協働に期待をします。

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前も「ちゃん」づけは抑制し、ご利用者個人の尊厳を大切に、そのあらわれとして敬語で会話するように努めている。	入居者個々人の自尊心・羞恥心を確保するための具体的手法として、人としての『あるべき接遇』に焦点をあて職員が日常行動として常態化するよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションへの参加も施設が強制することなく、利用者さんの意思で決定するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の都合に合わせることなく、極力利用者の意思尊重し、かつ、家族が協力していただき外出等をとりにれています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には極力、自分で衣服の選択行為をして頂くように取り組んでいます。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を取入れたり、各種行事に合わせ、おこわ、おにぎり作りをし、おやつは手作りに心がけ、後片付けも利用者と一緒にしている。	食事に変化をつけるため、季節毎にイベント食(巻き寿司、流しそうめん等)やおやつ(柏餅やおはぎ)作りを一緒にいき、楽しい時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日一人ひとりの食事量を把握し、栄養バランスを考慮して一人ひとりの状態にあわせて食事形態を変形している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は職員(歯科衛生士)を中心に取り組み、県主催「歯科保健相談」に会場提供し、ご利用者さんの口腔管理取組姿勢も高い評価をいただきました。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、早めのトイレ誘導するなど、尿意等残存能力保持を大切に取り組んでいます。	入居者個々人の排泄パターンやそのサイン(仕草や表情)を把握し、できる限りトイレでの排泄が可能となるよう支援している。外出際には、入居者が不安にならないよう十分な事前準備を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をつけながら個々にあった緩化剤の調整するなど、水分摂取量の確保に努めている。ご利用者情報の共有・活用に客観的数値の活用を勧奨中です。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	風呂嫌いな方が多く、声かけが難しい、無理強いはせず誰も、入浴時間・担当者を変えるなど工夫を凝らし、入浴勧奨に取り組んでいます。	週3回を基本に、曜日・時間帯を制限せず、入居者の状況に合わせた対応をしている。同法人が運営している通所介護事業所の休業日には、同施設の大浴場も利用して頂ける様にも計画している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんど居室で過ごされている方もあり、好きな時に自由に休んでもらっているが、出来れば食事・おやつ時には一同で過ごされる様推奨しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は説明書を確認し症状の変化観察するように心がけている。看護師が配薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器拭きなど役割を持って頂き、得意な巻き寿司作り、だんご作りもしてもらっている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設周辺の散歩、日光浴を行なっている。地区行事への参加、季節を感じてもらえるようにドライブにしている。	日常的な近隣への散歩や敷地内での外気浴に加え、季節の花見(桔梗、桜等)や秋祭りや出身地区の祭りに参加したりしている。	個々の利用者により「外出支援の目的」も様々と考えられます。今後も、利用者の思いに沿った支援の継続を願います。

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	どうしてもお金を持っていないと不安な利用者さんがお二人おられ、電話代ですと渡された時にはご家族に返している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から頻繁に手紙が送られてくる利用者には、すぐ返事が出せるようにハガキを用意し、不穩時には電話を架けさせて頂けるよう事前にお願ひしています。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こたつスペースに面する窓から四季折々景色が望め、天井も高く開放的で風船バレーが楽しめる。季節感は折り紙で季節に合った花を作って飾っている。	リビングは広く、畳敷きの小上がりには堀ごたつが設置されている。天井が高く開放的であり窓からは四季折々の景色が眺められる。共用空間には、季節毎の作品が掲示されている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こたつスペースには2~3人でお話され、気の合った方たちが集り雑談されておられます。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持参されている方もあり、また仏様にご飯を供えてと言われる利用者さんのご家族にはご主人の写真・位牌を持って来て頂きました。	引き戸式のドアは開閉がしやすく、使い慣れた馴染みのもの(家具、仏壇、写真、位牌等)が持ち込まれ、居心地の良い居室空間となっている。	今後も、利用者の状態の変化に合わせ、家族と相談しながら居心地の良い居室作りの継続を願います。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止に備えバリアフリーになっており、ドアはすべて引き戸方式を採用し、少しの力で開閉でき、洗面所等も幾分か低くすね等利用し易くし環境整備に努めている。		